

全日本民医連 2021「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」報告【無保険・資格書・短期証 20事例】

事例No	プロフィール	年齢代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前保険	受診・入院時保険	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
事例2	国保支払いの滞納あり、治療をしていくのが悩んでいた大腸癌の患者	60	男	夫婦のみ		借家、アパート		非正規雇用		就労収入本人/就労収入家族	5万以上10万未満		保険料	国保資格証明書	国保資格証明書	申請中	無		無		2018年10月20日	その他	1年	1年7カ月	治療中
事例4	無保険、胃がんターミナル患者	70	男	独居		社宅	会社の寮	非正規雇用		就労収入本人/年金収入本人	10万以上	無	保険料	無保険	生活保護	要介護5	有	有	有	生活保護申請までの減免	2021年7月26日	外来	1カ月	5カ月	その他
事例6		60	男	一人親世帯(子が18歳以上)	同敷地内で別々の建物に住居(本人は旧家に居住)	持ち家	本人所有の土地に旧家が残ったままになっており、家が2軒ある	無職		就労収入家族	10万以上	有	保険料/住民税	無保険	国保証	未申請	無	有	有	スマートフォンで「医療、無料」で検索したところ、当院の無料低額診療事業の記事に出会い繋がった。	2021年2月17日	その他	1カ月	2ヵ月	
事例9	体調不良により退職し、経済的理由で受診が遅れた肺癌患者	60	男	独居	父他界。妻・長男・兄・妹がいるが、音信不通。妻とは離婚届を出していない。	その他	会社の車で生活をしてきたが、退職後に車を返却したため路上生活になった。	無職	2021年8月体調不良のため退職した。			無	保険料	無保険	生活保護	未申請	無	有	無		2021年9月29日	その他	1カ月	2ヵ月	その他
事例11	後期高齢者医療保険証が留め置かれ、受診が遅れた患者	80	男	一人親世帯(子が18歳以上)		借家、アパート		年金受給者	ガードマンの仕事をして2020年6月まで続いていた。	就労収入家族/年金収入本人	10万以上	無	保険料/住民税/家賃/他	無保険	後期高齢者医療(国保資格証明書割)	未申請	無		無		2021年6月6日	救急搬送	1カ月	1カ月	中断

事例No	通院状況詳細	死亡日	死因	コロナ禍の影響	影響内容	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）	事例について（受診後の経過と転機）	自治体への働きかけと結果
事例2		2021年5月16日	病死	無		肛門の痛みがあり2018年10月に受診。詳しい検査は希望されず、軟膏処方のみ。その後1年受診なく、2019年10月に肛門痛、腫れ、出血で受診。大腸の腫瘍が見つかる。大腸癌の確定診断はついてはいなかったが、当院ではなく大学病院での治療が必要になると思われるとDrから告げられた為、妻と相談に来られた。6年前に今の妻と再婚。前妻は脳腫瘍で亡くなった。息子が一人いるが疎遠。平成16年から商売をしていたがうまくいかなかった。受診当初は月14日程、近くの会社で勤務し生計をたてていた。痛みで仕事を続ける事が困難になりつつあった。妻はB型肝炎の治療をしながらパートで働いている。妻の子が二人、孫二人と交流あり。	2019年11月大腸癌ステージⅥと診断。大学病院へ転院、化学療法、放射線治療後、2020年7月腹腔鏡下直腸切除、ストーマ造設を行った。術後肛門部痛が持続したため、疼痛コントロール、リハビリ目的で当院へ転院、症状緩和し、自宅退院となった。9月退院後の受診で骨盤腫瘍、肝肺多発転移を指摘され、再度入院治療。その後入院を繰り返しながら化学療法を継続してきたが、腫瘍は増大、治療継続困難となり、2021年4月本人の希望もあり自宅療養、緩和ケア目的で当院へ紹介となった。予後3~6カ月と説明はされていたが、妻はあきらめきれず、奇跡を信じ遠方で「水」をもらいに行ったり、献身的に介護を継続。訪問診療管理で症状緩和に努めたが、食事摂取が困難となり、徐々に衰弱。経済的にも厳しく、妻は仕事も継続が必要であり、日中、本人一人で自宅で過ごすことは難しいと判断。2021年5月自宅近くの当院へ再入院、入院5日後死亡された。	2019年11月国保滞納の為、限度額認定証が発行されない状況だった。電話にて相談したが、窓口で詳細を話すとのことで市役所に同行した。相談時、確定診断はされていないが、癌の治療が必要になると予測されており、当院ではなく、大学病院での入院治療が必要となる為、治療の継続について悩んでいる事を国保担当者に伝えた。その担当者は月に57600円以上であれば相談にのるが、いくらかかるのかもわからない段階では相談にはのれないとの事だった。その後、確定診断が出た為、大学病院のSWに相談。医療費は限度額を超える事がわかっており、入院までに限度額認定証の取得を市役所に伝えてもらった。また大学病院の医事で入院の概算を出してもらい伝えてもらった。未納分の分割5000円と今期分の保険料を毎月支払う約束をし、限度額認定証の発行となった。
事例4	未受診	2021年12月7日	病死	無	結婚歴あり、子もいるが、離婚後30年ほど会っていない。兄弟とも疎遠。頼れるような知人もいない。 年金はあるが、生活には足りず、週2~3回の警備のアルバイトをしながら、会社の寮で生活し、生計を立てていた。 2021/7/26 10日間ほど食事が摂れおらず、痩せてきているので受診したいと自身で来院。 30年ほど無保険。10年ほど検診も未受診。 今後の治療のために、国民健康保険の加入を促し、無料低額診療事業の案内。	7/26 無保険で外来受診。受診時の検査で、胃がん疑いで入院での精査必要となる。 7/28 精査入院。胃がんターミナル診断。入院となったため、生活保護申請 8/10 他院へ専門治療のため、転院。バイパス術、CVポート造設される。 8/27 再度、当院へ転院 10/24 新しい住居と、医療・介護のフォロー調整し退院。 ※入院時からの生活保護は受理されたため、外来受診費用は（国保加入して）無料低額診療事業を適用。 12/7 胃がん末期にて死亡	入院当日に区役所へ生活保護申請希望の連絡を入れるも、「アルバイト先の寮に居住している状況では受給できない」「緊急小口貸付金や総合支援金を利用して住居を借りてから申請を」と言われる。住宅扶助を除いても入院中の受給ができないか尋ねるも、「前例が無いので難しい」と返答される。しかし以前に同じアルバイト先の寮に居住している患者が生活保護申請し受給できた事例が2件あったと伝えて区役所内で再検討してもらおう依頼すると、その後、保護受給が決定した。 国民健康保険の加入手続きでは、区役所に社会保険喪失証明が必須と言われたため30年ほど前に退職した際の証明書を年金事務所に発行してもらったが、古いものであり特例で用意してもらったために手続き完了までに時間がかかってしまった。それでも区役所からは一貫して証明書が必要と言われた。 特になし	
事例6	どこにも受診しなかった	2021年4月6日	病死	無		60歳で定年退職後、無職のまま自宅で過ごし、老齢年金の支給申請もしていなかった。同じ敷地内の別宅に実子が一人で居住。実子は軽度の知的障がいがあり、派遣職員として働いていたものの、父親の体調を気にかけることまでは難しく、また本人も子どもに頼らず、電気代だけ出してもらったり、食事だけ分けてもらったりしながら生活していた。本人は体調不良を自覚しながらもどこに相談してもいまいか分からないまま経過し、偶然、県外から子どもが帰省した際に父親の異変に気づき、病院受診が必要との話になった。本人にお金が無く保険証も無い状態で、子ども連も補填してあげる余裕が無く、スマートフォンで「医療、無料」で検索したところ、当院のホームページから無料低額診療事業について知り、MSWに相談の連絡が入った。相談時に国保証が期限切れとなっている状態だったため、子どもに国保加入を依頼し、国保加入の上、無料低額診療事業利用前提で受診の運びとなった。	受診日の検査で膵臓がんと多発肝転移との診断に至り、手術も不能なほど進行していると告げられた。治療開始時からBSOの方針となり、できるだけ自宅で過ごし、疼痛が出現してから入院となった。入院後、生活保護を申請して緩和ケア病棟へ転院することも提案されたが、転院相談する時間もないくらい早期に死亡に至った。外来診療費、入院診療費ともに無料低額診療事業で対応した。	
事例9	通院先なし	2021年11月12日	病死	無		高校卒業後、高校時代にアルバイトしていた割烹料理屋に就職。調理師免許を取得した。10年くらい働き、その後いろんな職場を転々としていた。52歳頃から焼き鳥屋で働いていた。会社の寮で生活していたが、2021年8月末頃から体調不良になり退職。退職とともに寮を出て会社の車で生活していたが、車も返却していたため路上生活をしていた。32歳で結婚。婿養子。 寮に入るときに妻・長男と別居した。妻とは離婚はしていないが、妻・長男ともに連絡先は分からない。 2021/9/29生活保護の申請に市役所へ行ったところ、体調が悪くとにかく受診が優先と考えられ、生活保護OWにつれられて当院外来を受診した。当院受診前に3ヶ所の病院受診を断られている。（理由は不明） 咳嗽、血痰、全身倦怠感あり精査加療目的で入院となった。	精査の結果原発性肺癌という診断になったが、積極的な治療ができる状態ではなかった。介護保険を申請し施設療養も視野に入れつつ、10/16緩和ケア病棟へ転科した。10/27生活保護決定の連絡あり。 11/12当院緩和ケア病棟でお亡くなりになった。	・来院前に生活保護申請を行っていた。10/6生活保護OW来院し、本人から生活歴の聞き取り等を実施、10/27受給が決定した。保護費は当院へ現金書留で郵送してもらった。 ・介護保険は、住居はないが住民票はある。本人が身分証をもっていたため本人確認後申請した。
事例11		2021年6月29日	病死	有	失業/就労収入の減少	●生育歴、職歴 芸能事務所マネージャーとして働き、普段はホテルで暮らし、月2回帰って来れば良い方だった。羽振り良かった。妻の小料理屋が繁盛していたのか家にはお金を入れていなかった。野心家で仕事が軌道に乗ると、芸能事務所を立ち上げては倒産させを繰り返していた。芸能事務所後はタクシーの運転手をしてきたが、事故を起こすことが増えたため、免許を取り上げられた。5~6年前からガードマンの仕事に就き、週2~5日勤務で約13万/月の収入。2020年6月、体力的に辛い、コロナで仕事が減ったため退職。 同居の娘は友人が経営している会社を手伝っていたが倒産。求職していたが、腰痛で外で働く事は難しいと考え、在宅ワークを探し、ゲームのモニターなど行い収入は約4万/月。社協の総合支援金を2020年7月頃に申請、2人で月20万支給された。2021年の7月まで支給。 娘は小1の時交通事故に遭い、1年休んで治療に専念する話もでたが通学したかったため、最低限の治療で退院している。腰痛はこの頃からのもの。妻の具合が悪くなった際には、本人が「お前がいるから仕事に専念出来る」と言われ、娘が仕事を辞めて妻の病院関係など全て娘が行った。 ●受診までの経緯 2年前まで高血圧で他院通院していたが、経済的理由で中断。当院へ救急搬送される1ヶ月前から寝たきり状態で、直近2週間は歩行もほとんどできず、食事はゼリーのようなものを食べていた。保険証が手元になく、娘が市役所に保険料滞納について相談に行くことになっていたが、腰痛のために行けていなかった。そのため、病院にかかることをためらっていた。意識消失のため同居の長女が救急隊要請し、当院へ肺炎・尿路感染症で入院となった。	抗生物質の薬を2週間使用しても改善がなく、細菌ではなくカビによる肺炎も考え、それに対する薬を使用していた。しかし、効果は乏しく酸素値が悪くなり本人の意識状態が悪化。栄養状態や腎機能の悪化が見られ、積極的な治療ではなく本人の苦痛の軽減しながら看取る方向になった。その後亡くなる。	入院後市役所に保険証発行について確認。後期高齢者医療保険の保険料滞納があり、娘（本人）と話した後新しい保険証を渡すつもりであったと。コロナで本人、長女ともに収入が減っているため、一部負担金減免の可能性についても相談するが、それについても娘と直接相談したいと返される。娘に市役所との相談を勧め、保険証と減額証発行となった。医療費の減免については、「コロナの影響による退職」と離職票に書かれていないと対象にはならないと言われ、本人が退職届を出していなかったため、娘が代理で退職届を書いて出すことになっていた。

全日本民医連 2021「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」報告【無保険・資格書・短期証 20事例】

事例No	プロフィール	年齢代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前保険	受診・入院時保険	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
事例12	路上生活から生活保護世帯の弟宅に身を寄せたが、受診が遅れ肺癌・転移性脳腫瘍で死亡した患者	70	男	その他	弟との二人世帯	知人宅	長年路上生活。入院の3カ月前から、弟宅に身を寄せた。	無職		その他				無保険	生活保護	申請中	無		無		2021年10月25日	救急搬送	8カ月	1カ月	その他
事例13	住民票がなく、無保険にて受診が遅れた中皮腫が強く疑われる患者	70	男	その他	友人宅に居候	知人宅		無職		その他	5万円未満	無		無保険	生活保護	非該当		無	無	無料低額診療は知っていたが、初診日に生活保護申請を行いその後保護決定があったため利用せず	2021年10月13日	その他	不明	1カ月	その他
事例16	20年来無保険、住民票も未梢状態、非正規雇用で、内縁の妻と二人暮らし。食道癌末期の診断を受け、コロナの影響で収入も減り他院で無料低額診療で入院。緩和ケア方向となり、遠方だが無低のある当院へ紹介入院。入院当日に他界された。	60	男	夫婦のみ		借家、アパート		非正規雇用		就労収入家族	10万以上	有		無保険	国保証		無	無	有	A病院で無料低額診療事業利用しており、当院で継続のため紹介有り。	2021年11月12日	他事業所からの紹介・転院	5カ月	1カ月	
事例17	他県より出稼ぎ。体調悪く、友人に進められ受診し末期癌診断をうけ緩和ケア病棟へ転院3日後に他界された。(告知後10日以内に他界。)	40	男	独居		借家、アパート		非正規雇用	入院と同時に仕事を辞めた。	就労収入本人	10万以上	有		国保資格証明書	国保資格証明書	未申請	無	無	有	医療費・食費を無料	2021年11月30日	他事業所からの紹介・転院	不明	0	
事例20	無保険のため病院受診されておらず。保険証取得し受診したところ進行結腸癌が判明	70	男	独居	若くして離婚。その後妻、長男と疎遠で身寄りなし	借家、アパート	家賃35,000円	非正規雇用		就労収入本人	5万以上10万未満	有	保険料/他	無保険	国保証	要介護1	有	無	有	2021/6/23初診時に無低診療申請し10割減免	2021年6月23日	生活困窮自立支援センター	2カ月		中断
事例31	身寄りが友人・短期保険者証の末期癌で病院で看取った患者～社会的貧困	60	男	独居	長男とは20年以上疎遠。家族の連絡先なし。	借家、アパート		非正規雇用	自動車整備会社	就労収入本人/年金収入本人	5万以上10万未満	有	保険料/住民税/他	国保短期保険証	国保短期保険証		無		無		2021年4月某日	その他	1カ月	6カ月	その他

事例No	通院状況 詳細	死亡日	死因	コロナ禍 の影響	影響内容	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）	事例について（受診後の経過と転機）	自治体への働きかけと結果
事例12	通院歴なし	2021年12月5日	病死	無		本人とは会話ができず、弟（詳細不明だが発達障害あり）がご存知の範囲での情報。 7人兄弟の長男。長女（姉）は逝去しているが、そのほかの兄弟は存命。水道屋だったが、いつからか無職でホームレス状態。頭部にはやくざと喧嘩した後の傷が残っている。 2021年7月頃、本人が突然弟の前に現れた。約30年ぶりの再会。自分しか面倒を見る人はいないと思ひ、自宅に招いた。弟は単身で生活保護受給中だが、役所のOWには本人と一緒に住んでいることを伝えていなかった。そのため、弟の保護費のみで生活。本人は無保険、住所不定のまま。体調不良を訴えることはあったが、受診を拒否していた。本人が徐々に弱っていく姿を見て、10/20に弟が助けを求め役所へ。10/21にケースワーカーが状況を聴取し、本人を含め生活保護申請を行っている。10/25、「全く食事が摂れない」と弟が役所へ電話。救急車を呼ぶよう言われ、救急要請。当院へ搬送となった。	肺癌、脳転移の診断。10/26にSWが本人と面談したが、意思疎通困難であった。 根本的な治療は困難な状況であったが、脳転移に対し11/8他院転院しガンナイフ施行。当院に11/10再入院となったが改善見られず、今後は苦痛緩和の方針となった。療養型病院へ転院依頼を行っていたが、転院前に当院で逝去。	
事例13	通院なし	2021年11月5日	病死	無		2021/9/28 生活保護ケースワーカーから当院へ無料低額診療の相談あり ・路上生活者で体調が悪くなり、動けない状態と市に相談があった。本人に受診するよう勧めたが保険証やお金がないので今は病院に行く気はない。病院に行くなら無料低額診療を行っている当院がいいと言っている。 ・今は友人宅に居る。 ・生活保護は、本人は外国籍を自称しており在留資格によっては保護受給資格がない。在留カードやパスポート、身分証明になるものは所持しておらず、当市に住民登録もないため生活保護申請ができない。というので、お金の心配はせず、まずは本人に受診に来てもらえるよう生活保護ケースワーカーに伝えた。 10/4 生活保護ケースワーカーから連絡あり ・本人が以前他市にて住民登録があったと申し出があったため、住民登録歴があれば生活保護受給できるので生活保護を申請し病院受診するよう生活保護ケースワーカーは勧めたが本人は生活保護の申請を断った。 10/13 その後、何度か生活保護ケースワーカーと友人で受診を説得し、生活保護を申請することになった。住所地は友人宅とし、生活保護ケースワーカー付き添いの下、当院受診し入院。 入院後、本人から聞き取ったところによると金属加工、外壁工事業、飲食業に従事していた。同居人から結婚し、子どもがいたのではないかという情報はあがるが、日本に戸籍がない為親族調査不能。親族の有無は確認できなかった。友人とは生活困窮者支援を行うNPO団体にて知り合った。当院が無料低額診療を行っていることもそのNPO団体で知ったとのこと。友人が要介護者のため、本人が友人の身の回りの介護を行っていた。 2021年8月ごろから咳を自覚していたが、放置していた。	入院時は快食、歩行可能な状況であったが、2週間の間に全身状態が急激に悪化し寝たきり状態。 原因としては、悪性中皮腫の可能性が高い。若い時から外壁の工事の仕事をやっていることが関連している可能性がある。 胸膜肥厚あり。ヒアルロン酸高値。腹水あり。 当院では確定診断ができず、本人に転院希望や今後の治療方針について問いかけるも本人の発言が日によって違っていた。当院で状態観察していたが、状態徐々に悪化し死亡となった。	このケースを発見したのは自治体の生活保護ケースワーカーである。 生活保護申請、病院受診、主治医ICにも当該ケースワーカーが付き添い行っている。 入院後病態が悪化していったため、保護決定後は遺体引き取りや死亡届の届出人についても市役所ケースワーカーが中心となって調整を行った。
事例16		2021年11月12日	病死	有	就労収入の減少	長年内縁の妻と2人暮らし。親族とは疎遠、実姉と音信不通。非正規雇用で運送業をしていたが、コロナで仕事が激減し収入がなくなっていた。元々住民票が抹消されており、名前も二つあるなど、謎が多かったが内妻はあえて詳細は聞けなかった。2021年5月頃より、肩の腫瘍を自覚し疼痛出現していたが受診せず。10月に食事が入らず体動困難となる。救急搬送された時点で治療はすでに困難であった。医療費支払い困難で無料低額診療を申請、当院から遠い住所だったが無料低額診療が利用できる緩和ケア病棟を希望され11/12当院へ転院し、同日他界された。	当院へ入院した時点で、本人は看取りが近い状況。無料低額診療申請。内妻より葬儀のことなど相談あり。なるべく費用負担が軽いところを希望され直葬可能な葬儀社を紹介した。	救急搬送先の病院で、住民票や国保作成など支援が行われた模様。当院では1日のみの入院であった。
事例17		2021年12月2日	病死			他県に住民票はあるが現在アパートを借り独居。出稼ぎで日雇い土木で働いていた。他県に離婚した妻と高校生の娘有り。他県に妹。両親は亡くなっている。妹がキーパーソンとなって手続きなど動かれている。友人など多い。	2021年11月13日左前胸部痛出現し、A病院受診。肺左上葉肺癌が疑われ、11月19日B病院入院。CT上多発肝転移および腹水貯留あり、11/24治療困難、緩和ケア方針となった。2021年11月30日緩和ケア病棟へ転院。2日後他界。	なし
事例20		2021年10月16日	病死	無		2018-2019年まで高血圧や痛風でクリニックを受診していたが自己中断。歩行のしづかさや食思不振、高血圧・痛風あり当診受診を希望。6/23に内科受診し即日入院。検査の結果、進行結腸癌が判明。 【生活・経済状況】 両親は他界。30~40年前に離婚し息子が一人いるが疎遠。4人姉兄の末っ子。80歳の姉が他県在住も疎遠。水道設備の仕事に従事。その後独立したが立ち行かなくなり生保を受給していた期間あり。免許はすでに返納。入院前まで飲食店で皿洗いのバイトをし6万/月の収入。年金も6万/月。入院を機に退職された。身寄りはなく、社会参加、地域のつながりもない。	2021/6/23受診、入院後介保申請し7/12自宅退院。ヘルパー利用。7/16生活保護申請。7/24再入院、8/5ご本人・主治医・緩和Ns・病棟Ns・ケアマネ・MSWで今後の治療方針について相談した。病状の急速な進行あり当院入院継続し緩和ケアを実施。2021/10/16お亡くなりになられた。	入院直前くらし相談支援センター介入し国保証取得。入院後、限度額認定証取得（低I）。生活保護申請
事例31	転院	2021年10月26日	病死	無		【生活歴・社会参加】20年以上前に妻と離婚、長男とも連絡を取っていません（本人曰く、息子の方から連絡が来ないから会いたくないだろうと）。2年前まで、日中は自動車整備工場・夜間は運転代行業・休日は修理屋の仕事をしていました。近年は自動車整備工場のみ勤務。連絡先は会社社長と、行きつけの飲食店の主人、店で仲良くなった友人夫婦。【受診までの経過】職場の同僚から黄疸を指摘され、かかりつけ医を受診。当院紹介され、2021.4-5月（2W程）まで入院、膵臓癌の診断にて手術検討のため他院へ転院となる。膵頭部十二指腸乳頭部癌・肺転移・癌性胸膜炎と診断され手術は中止。さらに多発転移もみられるようになり、予後1ヶ月の診断。看取りの目的で10/6に当院へ転院する。当日、本人から「保険者証が今月末で切れるため、翌月以降の保険者証についてどうしたら良いのか」と相談を受ける。税金関連の未納が以前からあった為、過去には給与を差押えられたこともあった。そのため、毎月3万円ずつ返納する予定だったが、体調不良で最近では支払いが出来ずにいた。その他、銀行などにも毎月15万円程の返済がある。以前は、24Hフルで働いていたから返済は出来てきた。ただ、支払いの事で病院に迷惑を掛けたくないと思っている。入院保障の保険に加入しているため、入院費用は心配ないと本人から話があった。	短期保険者証に関しては、市役所へ連絡しR4.7月有効期間の保険者証が発行となった。	なし

全日本民医連 2021「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」報告【無保険・資格書・短期証 20事例】

事例No	プロフィール	年齢代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前保険	受診・入院時保険	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
事例32	国保料を滞納していることで受診が遅れた可能性がある患者	60	男	独居	同居の母は死去。結婚歴あるが離婚している。娘2人は県外在住。	借家、アパート	元妻所有のマンションに無償で居住している	年金受給者		年金収入本人	10万以上	有	保険料/住民税	国保短期保険証	国保短期保険証	未申請	無		無		2021年11月12日	救急搬送	3カ月		その他
事例33	無保険で受診できず、重篤な状態で搬送された肝硬変患者	70	男	独居		借家、アパート	公営住宅(市営住宅)	年金受給者		年金収入本人	10万以上	無		無保険	無保険	未申請	無	無	無		2021年10月23日	救急搬送	4カ月	0	その他
事例35	脳梗塞で救急搬送された、生活歴不明の50代女性	50	女	その他	15年程前に転がり込んだという男性(日雇い)の同居人1名あり。	借家、アパート		無職		その他				無保険	生活保護	未申請	無		無		2021年10月27日	救急搬送			その他
事例36	日雇い労働、国保料滞納で資格証発行となっており、受診が遅れた胃がん患者	60	男	独居		社宅	日雇い会社寮	非正規雇用		就労収入本人				無保険	生活保護	未申請	無		無		2021年4月26日	その他	1カ月	2カ月	その他
事例37	日雇い、無保険、身寄り無し状態であり、受診が遅れた患者	60	男	独居		社宅	会社寮	その他	日雇い	就労収入本人				無保険	無保険	未申請	無	無	無		2021年9月16日	救急搬送	0カ月	0カ月	その他

事例No	通院状況 詳細	死亡日	死因	コロナ禍 の影響	影響内容	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）	事例について（受診後の経過と転機）	自治体への働きかけと結果
事例32	未受診	2021年11月26日	病死	無		2. 概要（年齢、性別、保険、居住地、家庭状況など気になったところ） 64歳男性 入院3日前から食事摂れず体動困難、本人より救急要請あり当院へ搬送、入院（本人は国保料未納なので救急要請をためらったが、本人から連絡を受けた元妻が要請を勧めた）。入院時に国保料未納があると元妻より情報を得た看護師より介入依頼あり、MSWが介入した。 独居 国保 短期証所持（平成30年～国保料滞納あり、役所への相談歴無） 市民税滞納あり 元妻所有のマンションで生活（元妻は別に一軒家の自宅をもっている） 58歳で早期退職、60歳～年金受給。元妻とは13年前ほど前に離婚。母と同居していたが3年前に死去。兄妹とは母の死後関わりなし。10年前～ギャンブルで借金を作り、母の年金収入がある間は生活できていたが、亡くなってからは自分の年金のみでの生活となり、困窮した。本人は今年の春頃までは友人と連絡を取っていたが、夏頃～体調が悪いことを理由に友人の訪問を断っていた。普段からアルコール、つまみで食事を済ませることが多かった。	入院後、元妻へ生活状況を聞き取るが、元妻は家庭の事情で自宅マンションに住まわせていただけで、日常生活では関わりなし。本人の生活・経済状況を把握している者がいなかった。本人からの働き取りを試みるも、本人が体調が悪いので話せない、と面接を拒否し、働き取りができなかった。 元妻が本人入院後に自宅マンション内を確認したが、コンビニで購入した食品の空き容器やアルコールの空き缶などで足の踏み場がない状態だった。元妻から本人に自宅を引き払ってもらいたいとの申し入れがあり、後日退去に関する同意書を元妻が持参し本人が同意し、自宅は退去となった。元妻からMSWに相談するよう説得されたことで本人はMSWの働き取りに応じ、年金は一定額受け取っているが借金がありその返済のために困窮しているとの話を確認した。自宅退去となった2日後に、本人の状態が悪化。本人の死後、遺体の引き取り先や入院費の支払いを対応してくれる方がおらず、元妻・妹・兄へ連絡を取った。親族が誰も遺体の引き取りができないことも考慮し、住所地の役所へ相談した。 本人は癌による全身状態悪化で死亡退院。元妻と兄で相談してもらい、結果として遺体の引き取りと火葬は元妻と娘、骨の引き取りは兄が行い、入院費の支払請求は元妻宛に送ることになった。	親族や元妻は当初関わりたくない意向を示していたため、遺体の引き取り手が見つからなかった場合を考慮し住所地の生活保護担当課へ相談し、親族が拒否した場合は行政から葬儀会社を依頼してもらえるように働きかけた。了承をもらい、親族が引き取り拒否した場合は病院から葬儀会社に直接連絡をして遺体を引き取ってもらえるよう準備をした。火葬費用については、後ほど行政から親族に連絡を取り請求することになるとのことだった。
事例33	受診なし	2021年12月19日	病死	無		警備員の仕事を長年されていた。途中で自身で知人と警備会社立ち上げ仕事していた。その際に社保を脱退し、その後国保加入手続きせず、無保険状態だった。4か月前から下痢、腹痛症状があったが無保険状態であり受診できず我慢していた。妹夫婦と連絡ついたが、入院前の詳しい状況などは把握していなかった。無保険状態であったことも知らなかった。	受診時、アルコール性肝硬変で腹水あり。腹水濃縮還元するも感染症併発し12/19死亡。入院医療費については市が独自でおこなっている法外支援制度を利用し、食事代や自費分については本人の年金から親族にお支払いいただいた。	なし。
事例35	無保険で 体調悪く ても我慢 していた (同居人 談)	2021年11月8日	病死	無		※救急搬送から亡くなるまで会話できる状態になかった。 ・15年程前に本人アパートへ転がり込んだと言われる男性より聞き取り。ただし、お互いの過去は聞かないのがルールだったとのことで、詳細不明（男性は救急搬送後、本人のみの単身生保申請を希望され、アパートを出て行かれて亡くなるまで連絡がとれなかった）。 ・水商売などをしていたようだが、最近は就労していない。同居男性が日雇い労働で若干の給与を得ていた。	・救急搬送時より、全失語、右完全麻痺。搬送後、13日目に亡くなられた。	・同居男性より、本人は無収入、無保険との話しあり、入院日に単身生活保護申請した。
事例36	受診なし	2021年7月2日	病死	無		・詳細な生育歴は不明。交流ある身よりなし。25年程前より建設労働者（日雇い建設会社）。その前は港湾労働者。 ・一ヶ月前より食欲が低下し、来院2週間ほど前から四肢のしびれ、疲労感も顕著になった。受診はせずに市販の太田胃散を服用していた。最後の1週間ほどは、ほとんど食べられなくなり、約13kgほど減少していた。赤褐色の嘔吐を繰り返したため、会社の人に付き添われて診療所へ来院。	受診時、検査にて入院加療が必要と判断され即日入院へ。胃幽門部癌ステージIVと診断、外科へ転科となり手術施行されるも切除不能。その後、誤嚥性肺炎の合併あり。2ヶ月後に緩和ケア目的に転院となった。緩和ケアへ転院後、8日目に亡くなられた。	・入院当日、生活保護申請し、その後決定。
事例37	かかりつ け無し	2021年9月17日	病死	無		姉がいるようだが、関わりは無い。キバーンは会社の上司。 生育歴やその他詳細は会社の上司も把握出来ていない。 職歴：日雇い 2021/9/14頃から胃痛を訴え、仕事を休んでいた。 9/16医療機関を受診する予定としていたが、市販薬で痛みが治まっていた為様子を見ていた。 23:00頃、寮の隣の部屋の人が物音に気付いた。部屋を覗いたところ座って震えている状態だった。 開眼はしているが意識疎通出来ない状態であった為、救急要請。	救急搬送当初は意識レベルJCS：I-3程度だったが直後にⅢ-300となり自発呼吸停止。合計3回心肺停止。 採血や胸腹部CT検査結果より、閉塞性化膿性胆管炎（総胆管結石）からの敗血症性ショック/DICによる心肺停止と判断された。 心拍再開はしたものの、翌9/17には血圧が測定できない状態となった。 医師と会社上司で話し、医学的に改善が見込まれないと説明。このまま看取る方針とした。 2021/9/17 10:52死亡確認。	死亡後の対応でA町(居住地)とB区(死亡した住所地)の保護課の言い分が異なっていた。しかしA町とB区の保護課職員同士で話して頂き、保護受給決定後はA町が対応する事で確認した。

全日本民医連 2021「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」報告【無保険・資格書・短期証 20事例】

事例No	プロフィール	年齢代	性別	家族構成	家族構成詳細	住居	住居詳細	職業	職業詳細	主な収入	おおよその月額(手取り)	負債の有無	各種税金などの滞納状況	受診前保険	受診・入院時保険	介護度・申請状況	介護保険サービス利用	保険料滞納	無低適用	無低詳細	初診日	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	通院状況
事例39	低年金で静かに生活されていた方	70	男	独居		借家、アパート		無職		年金収入本人	5万以上10万未満	無		国保資格証明書	生活保護	未申請	無	無	無		2021年11月2日	救急搬送	不明	不明	
事例40	慢性疾患の未受診で死亡に至ったケース(仮)	70	男	独居		借家、アパート		年金受給者		年金収入本人	5万以上10万未満	有	保険料/住民税/家賃/他	無保険	生活保護	なし	無	無	無			その他	2~3年	3年1カ月	中断
事例42		80	男	独居		借家、アパート		年金受給者		年金収入本人				後期高齢者短期保険証	後期高齢者短期保険証	未申請			無		2002年4月1日	外来	0カ月	0カ月	治療中
事例43	「国保料滞納のため限度額認定証がもらえず、治療を中断してしまった肝硬変の患者」	50	男	夫婦と子ども世帯(子が18歳未満)	居住実態は元妻と子どもがいる家。住民票は実家の父母の自宅	知人宅	居住実態は元妻と子どもがいる家に転がり込む形で居座るっていた。住民票は実家の父母の自宅	無職		就労収入家族		有	保険料/他	国保短期保険証	国保短期保険証	未申請			有	2020.9月~当院 無料低額診療制度利用中、2021.8月更新面談予定していたが通院中断していた	2020年9月12日	救急搬送		1年3カ月	中断

事例No	通院状況 詳細	死亡日	死因	コロナ禍 の影響	影響内容	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）	事例について（受診後の経過と転機）	自治体への働きかけと結果
事例39		2021年12月2日	病死	無		同胞姉、兄。中卒後塗装工として60歳くらいまで働く。仕事は激減し、その後は警備の仕事をしてきたよう。ここ数年は仕事も辞め、年金生活。結婚歴はあるが、子どもはなく、3年ほどで離婚。入院前に住んでいたアパートはかなり古いが、それなりに整頓されていて、家賃の滞納や隣人とのトラブルなどはなく過ごされていた様子。友人関係などは不明。アパート管理会社の方の話では、足は少し不自由そうだったが、大きく困っているような様子はなかった、と。	2021年11月2日、自宅アパートのドアの前に倒れているところを隣人が発見し、救急要請。部屋の状態は比較的きれいに整理されていたと。搬送時から意識障害JCSⅢ、CTで両側視床出血確認。身元不明、保険証も確認できずMSW介入依頼あり。生活保護の受給歴なく、包括支援センターの関わりもなかった。国民健康保険の有無については、医事課より確認して頂いたが教えてもらえなかった。無保険である可能性も考慮し、入院時から生活保護申請を行った。自宅アパートの管理会社へ契約時の情報を問い合わせ、保証人となっておられた『兄』の連絡先を教えてください。本人の所持品であった携帯電話からも同じ番号を確認できたので、翌日に『兄』へ連絡がとれた。自発開眼しているがJCS30意思疎通不可。主治医と兄で面談し、DNARの方針となった。兄とは疎遠だったが、ご遺骨は引き取る意向確認。その後兄が本人の自宅アパートで国民健康保険証をみつけたが、やはり低年金で医療費の支払いが困難な状況、転院となった場合、亡くなった場合なども考慮し、生活保護は取り下げずに調査をすすめて頂いた。年金は約9万円ほどだったので、無事に生活保護受給となった。そして、意識が戻らないまま11月24日にM療養病院へ転院となった。しかし、11月末でアパートを引き払ったことで住宅扶助がなくなったため、12月からはわずかに年金が生活保護基準を上回り生活保護が廃止となってしまった。その二日後、12月2日、永眠された。	生活保護の相談を電話で入れた際、窓口では比較的丁寧な対応で申請の受付はすぐなされた。しかし、意識障害で本人から聞き取りが出来ない状態であり、当院も初診の方で手がかりが少なく、本人の情報収集が困難だったため、公的な立場からできるだけ早くご家族などの情報を得たいところだった。幸い、不動産業者から、どうにか兄にたどりつくことができたが、いきいきセンターも情報を全くもっていなかった。今までは、日常生活に大きく問題はなかったかもしれないが、独居、身寄り無しというような方に対して、周囲の見守りはなかったのか、気になることはなかったのか。困難な生活状況の高齢者は増え続けていると思うが、地域でのつながりはより稀薄になっていると感じた。
事例40		2021年6月9日	病死	無		4人同胞の一番下。地元中学校、工業高校卒業後、他県の工場で働く。その後は運転手の仕事を転々とする。観光施設の運転手として働き、最終は日雇いでアルバイトをしていた。年金を月額10万円受給しており、家賃は月額40000円で滞納あり。消費者金融に借金あり。兄弟、友人にも借金を繰り返しており関係性は非常に良くない。2018年5月、2-3年前から健診で糖尿病の指摘があるも未受診。足先に傷が出来、発熱あり受診。糖尿病性両下肢壊疽からの敗血症で入院。インスリンが開始になり下肢洗浄を継続で退院になり、外来受診に移行1回の受診で中断。同年12月、福祉課より受診相談あり入院。蜂窩織炎で入院になり入院中に生活保護申請をし、保護受給開始になる。退院後、4ヶ月受診するが再度中断。その間に、福祉課では債務整理のために法テラスへの相談や、地域包括支援センターが介入し、生活支援の検討、提案をしていたが本人がのぞまず。その仕事で一定程度収入が得られるようになり保護中止。2021年5月末、福祉課より、2021年1月より仕事に行けず保険料を支払えず保険証なし。本人が体調が悪いので、受診をさせて欲しいと連絡あり。翌日受診。再度受診をし即入院を勧められるも、本人が1日待つて欲しいと言い、予定通りその翌日に入院になった。	6/4に敗血症で入院。本人と生活保護申請書を記載した。6/9に亡くなる。	福祉課、地域包括支援センター共、適宜、必要だと思われる支援について本人に提案し、本人と相談を重ねていたが、具体的な支援に結びつくことはなく、活用できた制度は生活保護のみだった。一定程度の収入が得られるようになり、保護が中止になったが、今までの経過を鑑み、生活困窮者自立支援担当と地域包括支援センターが経過を追っても良かったと考える また、国保課や収税課など、税金の滞納が数年発生している住民については、どうして滞納しているのか住民の生活実態を把握すべきだとも考える
事例42		2021年11月10日	病死	無		*野球をやっていたそうで、診察の時も高校野球やオリンピックなど医師とよく話になっていた様子。 *「野球をやっていたので暑いのは平気だが、寒くなるとしんどい」といったやりとりが、毎年記載されている。 *診察室でのやり取りで身内のことや地域とのつながりを示す記載は見当たらなかった。「散歩」「高校野球やオリンピックなどスポーツをテレビで鑑賞」「夜中もテレビと見えて寝不足」という記載が度々見られる。 *アパート（会社の寮？）近くの金属加工会社に長く勤め、定年後も会社が借りているアパートにそのまま暮らしていた様子。退職後も会社の社長とは関係がよく、「何かあれば相談したらいいよ」と言われていたと本人が話していた。しかしだんだん疎遠になっていたのか？ *11/10(水)当日も、警察が来て本人の連絡先をと言っている時に、アパートの住人が「社長に連絡とってみる」と言っておられたが顔末は不明。	*当院に長く通院の慢患患者さんですが、普段から45日（かつては30日）投与ですが、受診は2~3か月に一回と、間隔が空きがちで、度々「中断訪問」で行っていた。 *11/8(月)受診時各検査の結果がかなり悪く、その場で医師は入院を強く勧めたが「連絡したいところがある」と固辞され帰宅。9(火)は連絡がなく、10(水)も朝8時から何回も診療所から電話するが繋がらず「最悪亡くなっているかもしれない」とのことで、午前診療後12時40分ごろ看護主任と事務長で自宅アパート訪問、玄関は鍵が開いており名前呼ぶも応答なく上がり込むと亡くなっておられた。救急隊と警察も来て、死亡診断書は医師が記載。 *ご本人の携帯電話を確認すると、8(月)夜に何件か電話されており、どこかに相談をしていたと思われる。亡くなられたのはそれ以降か。 *8(月)は来院前に電話があり「診察に行きたいが支払は12月の年金の時でいいだろうか」とのことで、最終受診は8月で薬もないはずだから「とりあえず来て下さい、お金は12月で構いません」とお伝えしたのだが…	なし。
事例43		2021年11月11日	病死	無		暴力団組織に所属していた。傷害事件を起こし刑務所に入っていたことがある。出所後、組織からは抜けたが、しばらく定職に付けずに生活保護受給中だった。その後運送会社でトラックの運転手（重い荷物を運ぶこともあった。）をしていたが、2016年に退職。翌年の国保料が高額であったために滞納が始まる。その後ガソリンスタンド等でアルバイト生活をしてきたが、ぎっくり腰繰り返したり、パニック障害により就労できなくなる。心療内科に通院していた。2020年8月ごろから体調不良、足のむくみ出現。当院受診され腹水貯留、肝硬変と診断される。結婚歴あるが離婚し、当時は両親（70歳代）の住む実家に身を寄せていた。世帯収入は父の年金のみ。このころ、国保料の滞納は40~50万円。ある程度の額を納めない限度額認定証は発行してもらえないと言われていた。無低診10割決定している。2021.8.29~2021.9.2肝性脳症にて入院。セクハラ行為あり早期退院している。無低診更新面談行えず（限度額認定証が取得できていない）、入院費は滞納となっていた。その後、通院は中断し未来院チェックで電話掛けしたが「近いうちに行く」と言うが来ずだった。退院後、離婚した元妻の家に勝手に居座っており、子ども2人にも暴言・暴力あり困っていたと元妻の談。	2021年11月10日、元妻が仕事から帰宅するとアルコール飲酒し、倒れているところ発見され救急搬送された。意識レベル低下、低体温、肺炎、低血糖にて入院。最近では飲酒ばかりで食事摂取していなかったとのこと。 入院時、短期保険者証、限度額認定証発行できず（先述）。父からは実家に住民票はあるが父が母の介護をしており、長年一緒に暮らしてもいなくて経済的な支援はできないと言われ、元妻からは勝手に転がり込まれて困っていたので帰ってきてほしくないし経済的な支援も厳しいと言われた。本人は意思表示できる状態になく、状況から病院で判断し、11日生活保護申請を行った。 11月11日16時敗血症により死亡。	◆生活保護申請→（入院後） ・住所不定で受付しなかった ・日曜入院、月曜申請したが、日曜からの受付にしてもらえた。 ・葬祭費に関しては父親がご遺体の引き取り希望されたため家族で負担された。 ◆国保料→（過去の受診時）滞納額は提示してもらえたが、具体的な解決策の提案や相談に至らず。滞納額を支払わないため限度額適用認定証の発行をしてもらえず入院費滞納となった。→（過去の入院時）元妻が市役所に相談に行ったが婚姻関係がないという理由で対応してもらえなかった。→（今回入院時）滞納があるので限度額適用認定証発行できないと言われた。